

玉木病院

医療機関2025プラン

平成30年 9月 策定

【基本情報】

医療機関名	玉木病院
開設主体	個人
所在地	山口県萩市大字瓦町 1
許可病床数 (病床の種別) (病床機能別)	151 床 一般病床 40 床、療養病床 111 床 急性期 40 床、慢性期 111 床
稼働病床数 (病床の種別) (病床機能別)	151 床 一般病床 40 床、療養病床 111 床 急性期 40 床、慢性期 111 床
診療科目	外科、整形外科、脳神経外科、肛門外科 内科、循環器内科、消化器内科、心療内科 泌尿器科、放射線科、皮膚科、リハビリテーション科
職員数 ・ 医師 ・ 看護職員 ・ 専門職 ・ 事務職員他	145 名 (平成 30 年 8 月 1 日現在) 7.2 名 121 名 8 名 13 名

【1. 現状と課題】

① 自施設の現状

◎ 当院では、急性期入院から在宅療養に到るまでの幅広い疾病に対して、総合的に対応できる医療体制を整えており、プライマリケアの提供に務めている。

○地域医療への貢献

【一般病床】

一般病床に関しては、救急告示病院として萩圏域の2次救急輪番体制にて、4日に1度の救急指定を担当している。

救急患者への対応を強化すべく、平成28年に10対1入院基本料に看護単位の引き上げを行った。救急車の受入件数は、平成27年度の393件から平成28年度は484件、平成29年度は524件と増加し続けており、個人病院でありながら萩圏域の救急搬送全体の21.9%を担っている。また、萩圏域に不足している回復期機能の実質的な役割を果たしており、在宅担当の診療所と連携し、その後方支援として緊急時の一時受入にも尽力している。この結果、平成29年度の病床稼働率は90.7%と高い稼働率で推移している。

【療養病床】

療養病床に関しては、111床の入院基本料1を届け出ており、医療の必要度が高く在宅復帰が困難な患者の受け皿として機能している。実際に、平成29年度の病床稼働率は98.4%とほぼ満床を維持し、医療区分2・3の患者割合は90%前後で推移している。

○高気圧酸素治療

山口県内では山口大学を除き唯一、高気圧医学専門医と高気圧酸素治療専門技師が常勤しており、圏域内はもとより県外を含む圏域外からも治療を引き受けている。平成30年度診療報酬改定にて、先進的な医療技術の導入目的を理由に点数及び適応が見直され、北浦地区において、当該治療の先駆者として地域医療に寄与しているところである。

○人工透析

人工透析のベッド数は7台で、外来及び入院に対応しており、在宅復帰が困難で維持透析が必要な患者も療養病床にて受け持っている。

○診療体制

外科を始め内科、整形外科、呼吸器・泌尿器感染症、心療内科等、一般的疾患の外来・入院治療を受け持っている。また、萩圏域では都志見病院を除き、唯一脳神経外科を標榜しており、外来及び入院にて患者の受け入れを行っている。

上記の通り当院では、急性期入院から在宅療養に到るまでの幅広い疾病に対して総合的に対応できる医療体制を整えており、プライマリケアの提供に務めている。

② 自施設の課題

○萩圏域全体の問題ではあるが、急激に進む過疎化・高齢化において、看護職員の確保は引き続き課題となってくると考える。医師・看護師等はさることながら、看護補助者の確保も大きな課題と言える。上記の通り、当院は高い病床稼働率で推移しており、その機能の保持の為には、現場で働く人材のマンパワーの確保と質の充実が今後も重要である。

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～②を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

◎ 当院が掲げる3つの基本理念のうちの1つである、「急性期（医の本質としての救急）と慢性期（医の心としての介護）との全人的医療」を、今後も基本的な当院の姿勢として継続し、他の医療機関等と連携の強化に一層取り組んでいく。

- 萩圏域の地域医療を守る為、2次救急輪番体制を含めて、中核の急性期病院の後方支援としての役割をさらに果たしていく。
 - ・ポストアキュート機能の充実強化
- 在宅担当の診療所とも連携し、救急医療と在宅医療の橋渡しの役割を強めていく。
 - ・サブアキュート機能の充実強化
- 将来、在宅療養支援病院も視野に、在宅担当の診療所との密接な協力の下で、萩圏域の在宅医療の充実の為に当院としてできることを追求していく。
- 今後も引き続き、医療の必要度の高い療養患者の受け皿として機能を果たしていく。

② 今後持つべき病床機能

- 平成29年度の病床稼働率は一般病床40床が90.7%、療養病棟111床が98.4%と高く推移している。現状を踏まえれば、当院の急性期と慢性期の現在の病床機能は、萩圏域において今後も必要とされるものとする。

【一般病床】

一般病床40床に関しては、救急指定を受ける病院として急性期機能を基本的に維持し、今後更に萩圏域の中で必要とされるポストアキュート、サブアキュート等、回復期的な機能の強化にも努めていく考えである。

【療養病床】

療養病床111床に関しては、医療の必要度の高い患者の受け皿として、現状の病床数を維持していく考えである。

③ その他見直すべき点

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成30年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期	0	→	0
急性期	40		40
回復期	0		0
慢性期	111		111
休棟等	0		0
(合計)	151		151
介護保険施設へ移行予定	—		0
うち、介護医療院	—		0

※ 圏域内の他の中核医療機関との役割分担の協議等を踏まえて今後検討する

<年次スケジュール> ※今後のスケジュールがある場合に記入

年度	取組内容	到達目標

② 診療科の見直しについて ※検討の上、見直さない場合には、記載は不要

--

③ その他の数値目標について ※該当項目がある場合に記入

--

【4. その他】(自由記載)

平成30年9月、山口県救急医療功労者知事表彰受賞(団体)を頂きました。
 小さな個人病院ではありますが、地域の救急医療に貢献すべく日々努めてきました。

今後も微力ながら、救急医療の提供を通じて、急性期を主体とする中核的な病院の機能を補完する為の役割を果たしていきたいと考えています。

また、外来診療機能の充実を通じて、在宅医療を提供する診療所との連携をより一層強め、萩圏域になくてはならない、かかりつけ医のいる地域密着型の病院として地域医療に貢献していきたいと考えています。